

## 【 アピール 】

### 真に私たちの要求を前進させるために 参議院選挙をたたかいぬきましょう

公約を破り続け、国民の期待を裏切り続けた鳩山政権が崩壊し、菅内閣が発足しました。しかし、菅内閣は、「政治とカネ」問題には無反省、普天間問題での日米合意を継承、後期高齢者医療制度を継続、そのうえ、消費税増税と大企業減税を言い出すなど、国民の怒りの根源になった問題を真に解決するどころか、むしろ対米従属と大企業優先の姿勢を強めています。

これでは、国民の願いとの矛盾はひろがるばかりです。高齢者の生活は悪化しています。後期高齢者医療制度は、公約に反して先延ばしされるだけでなく、あらたに年齢を65歳にまで引き下げた高齢者医療制度がつくられようとしています。ねらいは、国の医療費の削減であり、医療の差別であり、医療の自己責任論・受益者負担論の定着と高齢者への医療費負担の増大です。

この間、私たちは、全国でさまざまな行動を展開し、高齢者をたずね、街頭に立ち、後期高齢者医療制度即時廃止の署名に全力をあげました。かつてないスピードで11万以上の署名を集めました。私たちは、また、消えた年金を一刻も早く完全に解決し、消費税増税によらず現在の無年金・低年金者を救済する最低保障年金制度の確立を求めて運動しています。生活保護の老齢加算の廃止、高齢者増税、医療・介護保険料の引き上げと高すぎる利用料など、弱者切り捨ての政策に反対しています。

新しい菅政権が、国民や高齢者に対して、どういう政策をとろうとしているのか、きびしく見ていきましょう。基地は要らないという沖縄の声、国民の声に真摯に向き合う政治を求めましょう。

参議院選挙では、こんどこそだまされないで正しい選択をするよう声をかけあいましょう。公約破りや、高齢者いじめに、はっきりとしたノーをつきつけましょう。

真に私たちの願いを実現する政治勢力をのばすために全力をあげて奮闘しましょう。10万組合員を達成した力を選挙でもおおいに発揮して、高齢者にやさしい政治を求めてたたかいぬきましょう。

2010年6月15日

全日本年金者組合第25回中央委員会